

5. 新聞等に掲載された研究

解剖学第三

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
小路武彦・教授	カーボンナノチューブ (CT)の医学分野への応用	日経BP社 日経ナノテクノロジー	2003.5.17	未来の新素材としてのCTの生体内特性を検討し医療分野への応用を図る

生理学第二

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
篠原一之・教授	フェロモンについて	T V Q バーキンカフェ	2003年 2月2日	哺乳類からヒトに至るまでのフェロモンについて解説した。フェロモンは、ヒトではアポクリン汗腺から発せられると考えられており、腋下フェロモンは、女性の月経周期を早めたり、遅めたりする作用があることが報告されている為、フェロモンが月経周期を変化させる作用について解説した。
篠原一之・教授	フラッシュ暗算ー右脳と左脳の違いについて	N I B プラスワン長崎	2003年 2月10日	最近、右脳を発達させることで話題となっているフラッシュ暗算について、右脳と左脳の持つ機能の違いから、暗算や計算に使われる高次脳機能の役割について解説した。
篠原一之・教授	更年期障害、睡眠について	N H K 長崎 がまだせ5 [もっと健康 大作戦!]	2003年 4月2日～ 4月30日	女性ホルモンのレベルは思春期に上昇し、20代にピークを迎え、卵巣機能の衰えと共に減少し、閉経期を迎える。この閉経期を挟んだ前後5年間を更年期と呼び、エストロゲンやプロジェステロン分泌の低下によって特徴付けられる。更年期障害はこの時期の女性の60～70%に見られ、FSHの過剰分泌が原因で、のぼせ、ほてり、発汗、動悸が生じるだけでなく、その他にも睡眠障害を生じる場合がある。そこで、更年期の女性ホルモンの減少と睡眠障害について解説した。

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
篠原一之・教授	性をめぐる7つのミステリー—男と女はなぜひかれ合うのか？	日経サイエンス	2003年 6月号	なぜ男女は互いにひかれあうのかという問いに対し、嗅覚が果たしている役割について解説した。主要組織適合性抗原複合体（MHC、ヒトではHLA）遺伝子の差異によって、相手の匂いに対する好み異なることが報告されている。したがって、男女の相性は嗅覚によっても嗅ぎ分けられていることを示唆する。
篠原一之・教授	再生医療	N B C 報道センター N B C	2003年 8月28日	失われた細胞の機能を細胞移植や我々の体の中に眠っている再生能力を活性化することによって再生し、病気を根本から治す「再生医療」は21世紀の新しい医療として注目を浴びている。長崎大学では「21世紀の新しい医療である再生医療の基礎科学および応用科学を発展させ、長崎地域の医療従事者の再生医学の研鑽に貢献し、速やかに安全性の高い再生医療を確立し、長崎地域、ひいては九州地域の住民の健康に奉仕すること」を目的とし、「長崎再生医療研究会」を発足させ、その活動を紹介した。
篠原一之・教授	生理はうつるのか	朝日新聞 A E R A	2003年 9月8日	女性同士の月経周期が同期化する現象は、腋下フェロモンによってもたらされる。腋下フェロモンは、視床下部に作用することで血中LHのパルス間隔を変化しうることを明らかにしたので、月経周期の同期化と腋下フェロモンの視床下部への作用について解説した。

内科学第一

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
江口勝美・教授	COX-2 選択的阻害薬は潰瘍の発現が少ない (RDIC セミナー)	日刊薬業	2003. 3. 18	第11回 RDIC セミナーにおいて、非ステロイド性消炎鎮痛剤の (NSAIDs) の COX-2 選択的阻害薬は従来の NSAIDs に比較して、胃・十二指腸潰瘍の発現が少ないことを発表した。
江口勝美・教授	承認間近の関節リウマチ新薬	中国新聞	2003. 6. 10	生物学的製剤インフリキシマブは、関節リウマチの関節破壊を抑えることを発表した。
江口勝美・教授	関節リウマチに新薬	日本経済新聞	2003. 4. 15	関節リウマチの新規治療薬として、抗サイトカイン薬を挙げ、その作用、効果、副作用について発表した。
江口勝美・教授	関節リウマチにおいて生物学的製剤を安全に使用するため	REMEDY (機関誌)	2003. 11	宮坂信之、山中 寿、竹内 勤、江口勝美の 4 人は抗 TNF α 製剤導入に当たり、その使用における注意点について座談会を開き、公表した。
江口勝美・教授	インフリキシマブ Q&A	インフリキシマブ Q & A (冊子)	2003	インフリキシマブの使用法を具体的に Question & Answer という形で冊子にまとめて公表した。
江口勝美・教授	関節リウマチに対する生物剤使用ガイドライン	厚生労働省 研究班	2003	厚生労働省研究班 3 班 (宮坂信之、竹内 勤、江口勝美の 3 人) は、関節リウマチに対する生物製剤使用ガイドラインを公表した。
江口勝美・教授	ガイドライン・診断基準集	リウマチe-ネット (医療関係者用ホームページ)	2003. 2	関節リウマチの診断について公表した。

内科学第二

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
河野 茂・教授	きょう長崎大緊急公開講座 新型肺炎対処法	朝日新聞 読売新聞 長崎新聞	2003. 5. 9	SARS 新型肺炎に対する対処法を中心に、感染症に対する防御策を市民に分かりやすく説明した
河野 茂・教授	スーパーニュース スーパーレポート 「梅雨カビ大追跡」	フジテレビ	2003. 7. 14	じめじめした梅雨に発生するカビが引き起こす病気をわかりやすく説明した。
河野 茂・教授	できたて GoPan インフルエンザ SARS はだいじょうぶ	K T N	2003. 10. 21	SARS 新型肺炎とインフルエンザの症状や流行形式の相違点を中心にわかりやすく説明した。
河野 茂・教授	できたて GoPan 働き盛りの突然死の原因 と予防 心筋梗塞	K T N	2003. 11. 18	突然死の原因疾患の種類と中でも心筋梗塞についてその症状やリスクファクターをわかりやすく説明した。
河野 茂・教授	できたて GoPan アルコール	K T N	2003. 12. 16	アルコールの合併症としての肝障害を中心にわかりやすく説明した。

整形外科

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
松本智子・助教授	関節リウマチ	長崎新聞 健康欄	平成15年 9月1日	手術による関節リウマチの治療 ‘骨と関節の日’の啓蒙活動
松本智子・助教授	関節リウマチ	NCCテレビ放送 テレビ健康塾	平成15年 10月25日	関節リウマチの外科的治療 ‘骨と関節の日’の啓蒙活動
進藤裕幸・教授	人工関節	NCCテレビ放送 テレビ健康塾	平成15年 11月	関節リウマチの外科的治療 ‘骨と関節の日’の啓蒙活動

皮膚科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
片山一郎・教授	化粧とかぶれ	アレルギー談話室	2003. 3. 30	化粧品によるかぶれについて解説した

泌尿器科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
酒井英樹・講師	前立腺がんと PSA 優れた血液検査法：早期 発見ほど治療成績良好	長崎新聞	2003. 4. 7	
野口 満・助手	尿失禁の予防と治療	NCCテレビ放送 「テレビ健康塾」	2003. 5. 17	
野俣浩一郎・講師	血尿について—泌尿器科 疾患との関連	NCCテレビ放送 「テレビ健康塾」	2003. 5. 24	
酒井英樹・講師	前立腺がんと PSA	NCCテレビ放送 「テレビ健康塾」	2003. 5. 31	
酒井英樹・講師	再燃前立腺癌治療の新しい 展開	ラジオ短波放送 医学特別番組	2003. 9. 28 2003. 10. 10	

眼科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
雨宮次生・名誉教授	眼と栄養	日本眼科学会雑誌	平成15年 4月	永年にわたる眼科学研究の発展と失明予防への尽力により、日本眼科学会に多大なる貢献をした功を表し、「日本眼科学会名誉会員」の称号ならびに「日本眼科学会特別貢献賞」を授与された

放射線医学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
伊東昌子・講師	特集 骨のある一生	読売広島ライフ	2003. 2. 1	骨粗鬆症
伊東昌子・講師	骨微細構造を評価する —病態解明や治療効果判定に不可欠—	Medical Tribune	2003.12. 4	骨粗鬆症

形成外科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
秋田定伯・助手	創傷治癒	創傷治癒センター (web site)	2003年5月、 アメリカ創傷治癒学会 学会報告	創傷治癒に関する日本最大の web site
秋田定伯・助手	創傷治癒	創傷治癒センター (web site)	2003年9月 ヨーロッパ 創傷治癒学 会学会報告	創傷治癒に関する日本最大の web site
秋田定伯・助手	創傷治癒	Dermatology Times (web版)	2003年12月	アメリカ合衆国最大の皮膚科情報 紙&web サイト

心臓血管外科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
江石清行・教授	21世紀これからの心臓血管外科手術について	西日本新聞	2002. 6. 29	

分子診断研究分野（原研細胞）

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
	長崎大学は21日、ウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所、放射線医学研究所と学術協定を結んだ。	長崎新聞	2003年 2月22日	国際ヒバクシャ医療
	21世紀 COE プログラム 長崎大でシンポジウム	毎日新聞	2003年 2月22日	国際ヒバクシャ医療
	「21世紀COEプログラム」に選定された長大の研究教育事業「放射線医療科学国際コンソーシアム」の第1回長崎シンポジウムが21日、長崎大学で始まった。	長崎新聞	2003年 2月22日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	国際的NGO「テロに対する世界医療者会議」が3月28日スロベニアである国際会議で発足、被爆者医療が集積する長崎大学に要請、山下教授が協力の考え。	西日本新聞	2003年 2月23日	国際ヒバクシャ医療
	長崎大学は、300万人以上の被曝者がいるウクライナの二つの研究所と学術交流協定を結んだ。	朝日新聞	2003年 2月25日	国際ヒバクシャ医療
	長崎大学は、チェルノブイリ原発研究で知られるウクライナ医学アカデミーの二つの研究所と学術交流協定を結んだ。	西日本新聞	2003年 2月25日	国際ヒバクシャ医療
	カザフスタンの医師ら6名が23日、長崎市長を表敬訪問。NASHIMの招聘により8月下旬まで長大医学部で研修。	毎日新聞	2003年 7月24日	国際ヒバクシャ医療
	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会研修生が学長を表敬訪問	長崎大学学報	2003年 8月1日	国際ヒバクシャ医療
	旧ソ連地域で放射線被爆被災者を治療している「ヒバクシャ医療研修生」と市民との交流会が三日開かれた。	西日本新聞	2003年 8月4日	国際ヒバクシャ医療
	NASHIMの招きで被ばく者医療研修を行っている四ヶ国の医師らが三日、市民との交流会で、母国の被ばく患者の実情を訴えた。	読売新聞	2003年 8月4日	国際ヒバクシャ医療

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
	チェルノブイリ原発事故や旧ソ連核実験で放射線被曝した人々の治療にあたる医療専門科と市民との交流会が行われ。	朝日新聞	2003年 8月4日	国際ヒバクシャ医療
	モスクワ生物物理学研究所のレオニード・イリーン所長が旧ソ連で起きた放射線事故をまとめた「放射能汚染の大事故：影響と防護措置」を翻訳出版。	長崎新聞	2003年 8月9日	国際ヒバクシャ医療
ジャーナル・エレウバエバ	カザフスタンのセミパラチンスク診断センター主任、ジャーナル・エレウバエバさん（37）は、平和祈念式典に参列。	毎日新聞	2003年 8月10日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	チェルノブイリ原発禍から17年；PHSを活用し医療支援。	通信産業新聞	2003年 9月1日	国際ヒバクシャ医療
	原子力安全研究協会と長崎大医学部と県医師会は29日、長大医学部記念講堂で緊急被ばく医療「長崎フォーラム」を開く。	長崎新聞	2003年 11月28日	国際ヒバクシャ医療
	緊急被ばく医療「長崎フォーラム」が29日、長崎大医学部記念講堂で開かれた。	長崎新聞	2003年 11月30日	国際ヒバクシャ医療
	第五回永井隆平和祈念・長崎賞を、日本チェルノブイリ連帯基金（長野県松本市、鎌田實理事長）に贈ると発表。	長崎新聞	2003年 12月9日	国際ヒバクシャ医療
	緊急被ばく医療研修会が13日、長崎大学附属病院で始まった。	長崎新聞	2003年 12月14日	国際ヒバクシャ医療
	原子力発電所事故で被ばく患者の応急処置方法を実践的に学ぶ「緊急被ばく医療研修会」が13日、長大附属病院で始まった。	西日本新聞	2003年 12月14日	国際ヒバクシャ医療

○「研究内容の概要と社会との関連」

国際ヒバクシャ医療協力活動の成果を原爆被爆者医療へ還元し、同時に長崎の被爆医療のノウハウを世界へ発信し、海外からの研修生の受け入れ指導と公開セミナー開催など市民の目の高さでの医学の推進、啓蒙に尽力している。

国際放射線保健部門（原研国際）

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
	カザフスタンの医師ら6名が23日、長崎市長を表敬訪問。NASHIMの招聘により8月下旬まで長大医学部で研修。	毎日新聞	2003年 7月24日	国際ヒバクシャ医療
	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会研修生が学長を表敬訪問	長崎大学学報	2003年 8月1日	国際ヒバクシャ医療
	旧ソ連地域で放射線被爆被災者を治療している「ヒバクシャ医療研修生」と市民との交流会が三日開かれた。	西日本新聞	2003年 8月4日	国際ヒバクシャ医療
	NASHIMの招きで被ばく者医療研修を行っている四カ国の医師らが三日、市民との交流会で、母国の被ばく患者の実情を訴えた。	読売新聞	2003年 8月4日	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ原発事故や旧ソ連核実験で放射線被曝した人々の治療にあたっている医療専門家と市民との交流会が行われ、深刻な健康被害の実情を話した。	朝日新聞	2003年 8月4日	国際ヒバクシャ医療
	モスクワ生物物理学研究所のレオニード・イリーン所長が旧ソ連で起きた放射線事故をまとめた「放射能汚染の大事故：影響と防護措置」を翻訳出版した。	長崎新聞	2003年 8月9日	国際ヒバクシャ医療
ジャーナル・エレウバエバ	カザフスタンのセミパラチンスク診断センター主任、ジャーナル・エレウバエバさん(37)は、平和祈念式典に参列した。	毎日新聞	2003年 8月10日	国際ヒバクシャ医療

○「研究内容の概要と社会との関連」

国際ヒバクシャ医療協力活動の成果を原爆被爆者医療へ還元し、同時に長崎の被爆医療のノウハウを世界へ発信し、海外からの研修生の受け入れ指導と公開セミナー開催など市民の目の高さでの医学の推進、啓蒙に尽力している。

生活習慣病予防診療部

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
川崎英二・助教 授	病気の処方箋 糖尿病	C H O H O	2003. 7	糖尿病についての啓蒙
川崎英二・助教 授	Q&A 糖尿病何でも相談 室	べんちのーと	2003. 8. 20	こむらがえりの予防・処置につい て
川崎英二・助教 授	劇症1型糖尿病の診断・ 治療	日本医事新報	2003.10.11	劇症1型糖尿病の病因・診断・治 療の啓蒙
川崎英二・助教 授	「オンライン症例検討シ ステム」導入で県下全域 との病診連携を促進	ミ ク ス	2003. 5. 1	長崎県糖尿病治療研究会における 糖尿病病診連携の紹介
川崎英二・助教 授	「オンライン症例検討シ ステム」導入で県下全域 との病診連携を促進	ラジオたんぱ	2003. 9. 2	我々が取り組んでいる糖尿病病診 連携についての紹介

国際ヒバクシャ医療センター

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
	国際ヒバクシャ医療センター 長崎大学に4月開設	長崎新聞	2003年 2月22日	国際ヒバクシャ医療
	国際ヒバクシャ医療センター 長崎大学に4月開設	西日本新聞	2003年 2月22日	国際ヒバクシャ医療
	国際ヒバクシャ医療センター 長崎大学に4月開設	読売新聞	2003年 2月22日	国際ヒバクシャ医療
	国際ヒバクシャ医療センター 長崎大学に4月開設	毎日新聞	2003年 2月22日	国際ヒバクシャ医療
	長崎大学に治療拠点	日経新聞	2003年 2月22日	国際ヒバクシャ医療
	New Center to treat A-bomb victims	Japan Times	2003年 3月1日	国際ヒバクシャ医療
大津留 晶・助教	新しいがん治療着々	読売新聞	2003年 5月24日	展開医療
大津留 晶・助教	ヒバクシャを診る 心も体も永井博士のよう に	読売新聞 (夕刊)	2003年 8月22日	国際ヒバクシャ医療
	原子力安全研究協会と長 崎大医学部と県医師会は 29日、長大医学部記念講 堂で緊急被ばく医療「長 崎フォーラム」を開く。	長崎新聞	2003年 11月28日	緊急被ばく医療
	緊急被ばく医療「長崎 フォーラム」が29日、長 崎大医学部記念講堂で開 かれた。	長崎新聞	2003年 11月30日	緊急被ばく医療
	緊急被ばく医療研修会が 13日、長崎大学附属病院 で始まった。	長崎新聞	2003年 12月14日	緊急被ばく医療
	原子力発電所事故で被ば く患者の応急処置方法を 実践的に学ぶ「緊急被ば く医療研修会」が13日、 長大附属病院で始まった。	西日本新聞	2003年 12月14日	緊急被ばく医療

○「研究内容の概要と社会との関連」

国際ヒバクシャ医療協力活動の成果を原爆被爆者医療へ還元し、同時に長崎のヒバクシャ医療のノウハウを世界へ発信する。海外からの研修生の指導や渡日治療を受ける被爆者の受け入れを行う。